

8/28

アジア国際子ども映画祭 関西・四国ブロック大会

8月28日(土) 13:30~

南あわじ市文化体育館

作品募集

応募資格 小学生~高校生及びそれらの年齢に相当する個人またはグループ

応募内容

- ①「家族」をテーマにホームビデオで撮影した3分以内の未公開作品(友達やペットも可)
- ②1人(1グループ)1点の応募
- ③応募作品と一緒に所定の申込書を添えて提出

応募締切 7月23日(金)

※詳細は市ホームページに掲載。ビデオカメラの貸出しも行います。大会当日は作品応募者及び保護者2人の方々をご招待します。

子どもが撮影したホームビデオ作品による映画祭「アジア国際子ども映画祭」を開催します。 生涯学習文化振興課 ☎37-3020

鑑賞希望者を募集

「作品を出せなかった人」「来年は応募してみようという人」など約500人に一般席を抽選で手配します。ご希望の人は往復はがきで、7月31日(土)(消印有効)までにお申し込みください。※入場には申し込みが必要で、当日は一般入場はできません。

往復はがき
〒656-0393
住所
南あわじ市湊 90-1
南あわじ市教育委員会内
アジア国際子ども映画祭
事務局 行

※ここは白紙のまま

往復はがき
住所
氏名
電話番号
参加者(2人まで)
氏名・年齢をご記入ください

あなたのご住所
あなたのお名前
※必ずご記入をお願いします

◀往復はがきをご利用ください



※はがき1枚で2人まで参加できます。(住所氏名、参加者名は必ずご記入ください)。当選案内は8月10日(火)発送を予定しています。

映画祭当日のゲスト

杉良太郎名誉会長
伍代夏子さん、山川豊さん
山田純大さん、w-inds.の皆さん



口蹄疫の感染拡大を防ぐ

宮崎県で流行が続く家畜伝染病「口蹄疫」の対策として6月8日、南あわじ市口蹄疫連絡協議会が発足しました。市内には和牛4500頭、乳牛5500頭、豚1000頭が飼育されており、感染が広がった場合、被害は甚大なものになるとされています。同協議会は、県の関係機関や



▲防疫体制について協議する南あわじ市口蹄疫連絡協議会

淡路獣医師会など、畜産関係者ら約30人で構成。各事業所間の対応状況を確認しました。これまで、市はあわじ島農協や淡路島酪農と協力し、防疫対策として畜産農家への消毒剤の配布などを行ってききました。同協議会では、感染拡大防止のためにも、関係機関との連絡を密にしてい

し、感染の危険性を判断した場合は、対策本部(中田勝久本部長)を設置するとしています。また、会議では、一口蹄疫の

口蹄疫連絡協議会が発足



▲外からのウイルス侵入を防ぐため、石灰を畜舎周辺に散布

疑いがあった場合、検査結果が判明するまで1日半から2日を要するが、その間の防疫対策はどうするのか「洲本市や淡路市とともに、淡路島全体で連携した体制づくりも必要」など、活発な議論が交わされました。担当者は、「初動対応が最も重要なので万全の体制づくりをしておきたい」と話しています。

大規模災害に備える



▲協定を結んだ中田市長(左)と倉本満之組合長(右)

ほか、平常時には市が行う防災訓練への参加や防災啓発活動の協力も行います。今回、市と民間の団体が物資供給に関する協定を結ぶのは7例目。協定書に調印後、倉本満之組合長は「地域に根ざした組織として、できるかぎりの協力はしたい」と話していました。

ゆめるん号誕生



▲特選「薫風突いて疾風熱演」、正井良徳さん(神代)

市では、子育て学習・支援センターで使用する公用車をこのたび購入しました。同センターは、この公用車を利用して、公民館などに出向き、育児相談に応じていきます。



▲車体に「ゆめるん」をデザイン

ふるさと南あわじ応援寄附金 (6月16日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	330件	44,198,219円
市外(島内)	47件	5,871,000円
市外(島外)	203件	27,124,940円
合計	580件	77,194,159円

詳細は市のホームページに掲載しています

淡路だんじり祭 フォトコンテスト

淡路だんじり祭フォトコンテストの結果が決まり、特選1人と準特選2人、入選3人、佳作13人の作品が選ばれました。特選「薫風突いて疾風熱演」、正井良徳さん(神代)が最優秀賞を受賞しました。▽選者講評「投げだんじりの勇壮な練り込みの情景が無駄のない画面構成で、上手くまとめたカメラアイが功を奏しています。」 ※応募作品は7月15日(木)まで三原公民館で展示しています



ふるさと納税

ふれあい市長室

魅力ある農業・漁業など、次世代に引継ぐ仕掛けづくりを!

南あわじ市長 中田勝久

農・漁業等においては、価格低迷や高齢化、後継者不足など厳しい状況が続いています。しかし、世界的には人口増加、中国国内での食の安全への思考変化など、国外に目を向けると、日本産に対する安全・高品質イメージや、食糧自給に対する強い国家戦略が垣間見られるようになりました。また、国内では、もう10年もすると農・漁業等の労働力が半減するとの意見もあります。株式会社社の参入議論もされているところですが、安全・安心・高品質・まじめ・正直といった、特産品を大切に生産者気質や、売り方・見せ方が、今後の戦略にとって非常に大切になってまいります。言い換えると、南あわじ市は、日本や東アジアの食糧基地として農・漁業等の大産地を維持・拡大させるチャンスが間近に迫っていると考えます。一つは産地内対策です。既に各方面でご尽力いただいております省力化や規模拡大、熟練農業者や兼業農家を活かした対策、漁獲量減少を食い止めるための多様な事業、魚の絞め方や輸送技術の向上などです。もう一つは、マーケティング戦略です。すばらしい特産品をいかに売り出すか、農協が攻勢をかける「ほんまもん玉葱」や市場での評価拡大、消費者・都市生活者の支持を得るための都市・農村交流、青空市やインターネット販売など相対取引による学習と基盤づくり、全ての特産品が揃い、食べて・体験して販売する「まるごと南あわじ」の拠点施設、文化や自然景観、観光と融合した総合的産業への脱皮などです。例えば、主要野菜4品目は、市内で年間約1千万ケースの出荷があります。1ケース100円でも高く売れば、10億円の収入が増え、生産者だけでなく地域経済が潤うことができます。地道な活動の積み重ねが必要ですが、魅力や優位性を生かし、地域が丸となった取り組みによって「まるごと南あわじ」を売り出してまいります。雇用及び所得の確保をめざした市内産業の活性化のため、生命維持・健康増進産業として、将来性があり夢が膨らむ農・漁業等の可能性を見据えた基盤づくりを再度市民の皆様や関係機関と共に議論し、次世代に引き継ぐための仕掛けづくりに挑戦してまいります。

宮崎県で拡大している家畜法定伝染病の口蹄疫の発生が心配です。市では、全家畜飼養農家への消毒剤の配布や、県・関係機関と連携しての協議会設置による対応など、万一の場合に備えて努力しております。571戸約1万1千頭を有する全国有数の畜産地帯としての責任と、堆肥を活用した循環型農業の維持のため、市民の皆様のご協力をお願いします。